



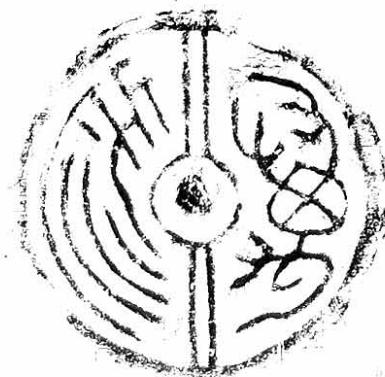
1



4



2



5



3

「落ち穂拾い記」④

『瓦当文』(中)

(図版⑤)

秦漢瓦當選粹

馬國權著



(図版③)



(図版④)



(図版①)



(図版②)

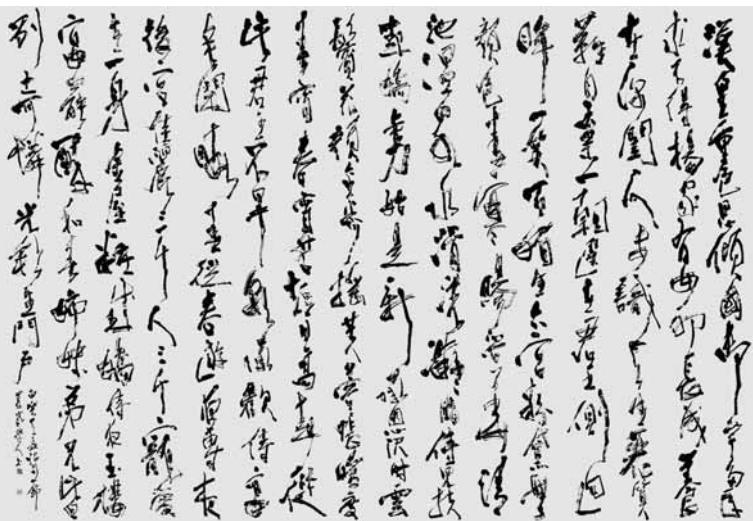


前号で示した『古代瓦当文字』の原拓本集を契機にして、これまで集めた瓦当文資料を基に、瓦当文をまとめる事を始めた。大学の後輩の編集者である「見氏から書の古典資料となるような書物を」という話を受けて、家蔵の原拓本、瓦当文の著作等の資料をコピーして1年余りの時間をかけて分類・整理し、「秦漢瓦当文」(B4版230頁)を仕上げた(図版①)。1995年の秋に刊行された。この編纂作業の頃は、中国へも出かける機会が度々有り、瓦当の本場・西安の友人の協力も大きく、幾度も珍しい新出土の資料拓本等を贈られたりして編集部の二見氏に何度も手直しをしていただいきたことを思い出す。書道の古典金石文鑑賞資料の一として、秦漢瓦当文を拓本図版の中心とした。しかし瓦当を理解するために、漢瓦当の原物写真も巻頭に収録した。文字瓦当を主とし、画像紋様瓦当も収録した。中心の文字瓦当は、先人の分類を参考に、「吉語」「宮殿」「官署」「祠墓」「雜類」に分け、その後に「半瓦当」(図版②)「画像」(図版③)「紋様」(図版④)と画像紋様瓦当の順に配列した。同文の瓦当でも文字構成、章法などが異なるものは、出来るだけ多く収録するよう努めた。そのために原寸図版にはとりわけ優れたものを選び、その他を縮印図版とした(右頁主図版)。吉語である「千秋万歳」瓦当は、原寸図版13点、縮印図版72点の計85点を収録した。本書全体で、1000点余の瓦当図版を載す。原寸図版が213点、縮印885点、総計1098点、文字瓦当は313種である。20数年を経ているが、近年刊行の瓦当文集としては、最も多くの種類と点数を収めたものとうことができようか。編纂途中で、巻頭に原拓の瓦当文拓本一張りを入れることを思いつき、編輯氏の了承を得た。この本の巻頭の原物瓦当写真の頁の後に、必ず一枚の原拓瓦当が綴じられている。珍しい「万歳」延年」をはじめとして「長生未央」まで十数種の吉語瓦当文を中国の友人に手配して調達した。最後に、古くから交流のあった香港の古文字学者・馬国權(1931生~2002没、篆刻書画も優れた)先生にお願いして、隸書「秦漢瓦当選粹」の題字書いていただき、本書の中扉とした(図版⑤)。

伊藤滋(書齋名・木鶴室)

書道芸術院

令和の群像 (2023)



西川翠嵐書



西川翠嵐

8歳の春初めて書塾に通った日、眞新しい筆と墨の香り、何より木製の折り畳み式のお道具箱を頂いたことが嬉しくて、ただただ「一の字」を書いていた事を覚えています。中学生まで続きましたが、当時の高校には書道の授業が無く大学に進むと真っ先に書道研究部の戸をたたきました。OBでもあった故笹本扇城先生にご指導いただき、鄭道昭に出会い悩む日々、伊都内親王頤文に憧れ、智永の千字文全臨、鄭長猷造像記そして鄧完白、王鐸へとひたすら古典の臨書に取り組み発表してきました。仮名は、粘葉本和漢朗詠集、大字には高木東扇先生のお手本で学ばせていただいたこともあります。

篆刻は、先輩に手ほどきを頂き以降独学が続き今日に至ります。この間、自分で高めてくれたのは、合宿のたびに笹本先生からご指導いただいた「楷書六法」。表現の幅をどう広げるかを学びました。教職を得て郷里に帰ると大学の先輩であり書道芸術院の会員でもあった故中山無覗（稀雲）先輩のご仲介で師・西林秉宣先生のご指導をいただけることとなりました。県展には全紙縦一枚半という大きさで行草書に初めて取り組み、なんとか入選することができましたが、月2回のお稽古日には王羲之の「蘭亭序」を4文字ずつ半紙でじっくりとご指導いただきました。焦らず一筆一筆、入筆の角度、穂先の動き、筆のねじれ等々先生の手元に眼を凝らし学ばせていただきました。以来40年、師の教えは「漢字作家である以上、楷行草篆隸の各体に研鑽を惜しまぬ事」常に新しいものをと模索して参りました。そして、今回の第76回書道芸術院展にて大作のお話を頂き、真夏の7月から取り組みを始めました。どんなに頑張っても自宅では全体像をつかむことができず、霧の中を手探りで彷徨うよう日々でしたが自分なりのイメージを胸に試作を繰り返してはご指導を頂きました。先生は進むべき方向性を明確にするよう的確な言葉を下さいました。その間も幾つもの展覧会への創作が平行しており、搬入の10日前にやっとお許しを頂きました。自分の両腕が抱えきれないほどの挑戦の機会を与えて下さいました院の先生方に改めて感謝申し上げます。

書のひろば

理事長 下谷洋子

(盛岡市つなぎ温泉)
3)秋季展・推薦作家展について
4)創立記念日の講演会講師について
(11月23日)

5)書道芸術院第74回毎日書道展出品者
懇親会について(7月23日)
6)第77回書道芸術院展一般公募優賞の
準特選名称変更について(今回は見
送り)

公益財団法人書道芸術院定例理事会 開催 令和5年度事業・予算案など

3月4日(土)午後、本院事務所にて表記定例理事会が開催されました。令和5年度の事業計画案・同予算案を中心審議し、その他の案件も原案通り可決しました。昨年に引き続き対面での理事会で、理事・監事全員と青木会計事務所の出席を得ての開催となりました。議事、審議事項は次の通りです。
(詳細は院報にて)

議事

- 1)議案第1号 令和5年度公益財団法人書道芸術院事業計画の承認について
- 2)議案第2号 重要な使用人の選任及び解任について
- 3)議案第3号 令和4年度公益財団法人書道芸術院収支補正予算(案)について
- 4)議案第4号 令和5年度公益財団法人書道芸術院収支補正予算(案)・資金調達及び投資の見込みについて
- 5)議案第5号 企画委員の選任について

審議事項

「音楽と書による追悼会」に出演 千葉蒼玄さん

金寿記念 辻元大雲 回顧書展
袖ヶ浦市郷土博物館にて開催



「ふるさと」に合わせて揮毫する蒼玄氏

かれました。本院の関係者もたくさんの方が被害に遭遇した記憶はまだ生き残っています。その追悼会の一つ、「音楽と書による追悼会」(毎日新聞社主催)が、石巻と雄勝硯伝統産業会館の2ヶ所で開かれ、千葉蒼玄理事が、シャンソンやピアノに合わせた揮毫を繰り広げました。折りを捧げる『色即是空』『ふるさと』など、曲目に添った揮毫は、漢字から現代詩文書、前衛書と一作ごとに味わいのある柔々としたものでした。

作を含め70余点の展示です。作品は全て、辻元先生らしい大らかな気概に満ち、特に新作の一歩前へは、先生のご自身の心境と共に見る私たちへの勇気を啓発して印象的でした。益々のご健筆を祈念します。

議事

6)第77回書道芸術院展一般公募優賞の準特選名称変更について(今回は見送り)

公益社団法人全日本書道連盟理事会 開催 令和5年度事業・予算案など

3月9日(木)、上野精養軒にて全日本書道連盟の理事会が開催されました。活動報告

- 1.書字・書道教育推進協議会ならびに日本書道ユネスコ登録推進協議会の活動報告

2.令和4年度書道講習会の報告

- 3.令和4年度助けあい募金の報告

4.令和5年度事業計画案・収支予算案、資金調達及び設備投資の見込みについて

5.令和4年度公益目的事業会計の処理について

6.任期満了に伴う役員改選について

7.令和5年度総会・令和5年度書写書道教育講演会について(6月1日)

8.令和5年度夏期書道大学講座について(8月4~6日)

その他



会場風景



テープカット

- 1)第77回書道芸術院展関係人事について(昇格、移籍、退会等)
- 2)令和5年度単位認定講習会について

月11日を中心東北各地で追悼会が開催された(昇格、移籍、退会等)
未曾有の東日本大震災から12年、3

書道芸術院顧問の辻元大雲先生が、
地元袖ヶ浦市郷土博物館にて同館主催の「令和4年度企画展」袖ヶ浦市美術II 傘寿記念 辻元大雲回顧展を開催します。

現代詩文書・漢字作品を主に臨書や新



会場風景



「龍笛擊鼉」

大沼 樹峰

書道芸術院春華賞

第76回書道芸術院展において、栄えある「春華賞」をいただき、選出してくださった先生方および関係の方々に厚く御礼申し上げます。

院展では、「記念賞」を60回展と65回展、75回展の3回いたただきました。前回記念賞をいただいた時、何となく、これが最後で一番上の賞なんだろうなと思つていました。それが何と、今回は春華賞です！予想だにしないことで後藤大峰先生から連絡をいただいた時は、何のことか理解できず、しばらくは地に足が着かない夢心地でいました。その後冷静になってから、「篆刻・刻字部」から最初の春華賞受賞の意味と重さに思い至り、事の重大さに冷や汗が出てきました。今後は、先達の作品に学びつつ、微力ながらも書道芸術院の発展と後進の育成にさらに尽力してまいります。

篆刻・刻字部
大沼 樹峰



篆刻・刻字部
大沼 樹峰

第76回書道芸術院展

〈1〉

書道芸術院大賞



前衛書部
吉田 恵弦

この度、歴史と伝統を誇る第76回書道芸術院展において、栄誉ある「大賞」を賜り、驚きと感動で胸がいっぱいです。これも書道芸術院の諸先生、宮城野書人会、玄穹社の千葉蒼玄先生、紅

雪先生、書友の皆様と家族の支えのお陰と厚く御礼申し上げます。
振り返ってみると、9歳から書道教室に通い、伊藤香寿先生、幸一先生に書の基礎を学び、社会人になってからは、長井四枝先生に前衛書の楽しさをご教授頂きました。現在は千葉蒼玄先生に前衛書の奥深さ等、多岐にわたりご指導を頂いております。

受賞作品「スパイラル」は墨色により静寂と躍动感を表現し、連鎖的な変化の中に奥行きと広がりのある造形を目指しました。

今後も古典に立脚し深めながら、書友と切磋琢磨して前衛書等の書芸術を極められるよう精進して参ります。



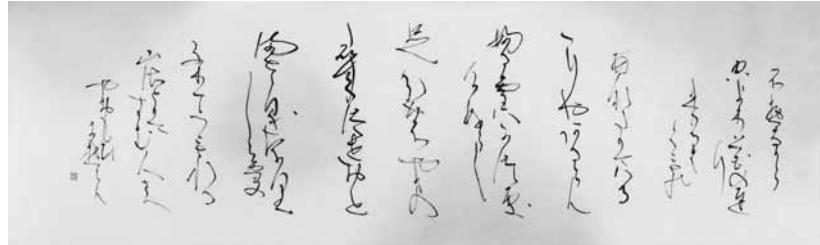
「スパイラル」

吉田 恵弦

書道芸術院準大賞



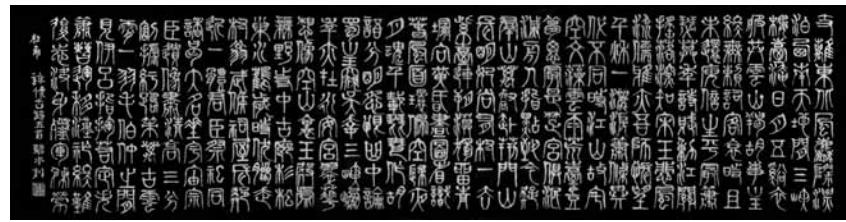
「春ごとに」



「冬ながら」

徳永美恵子

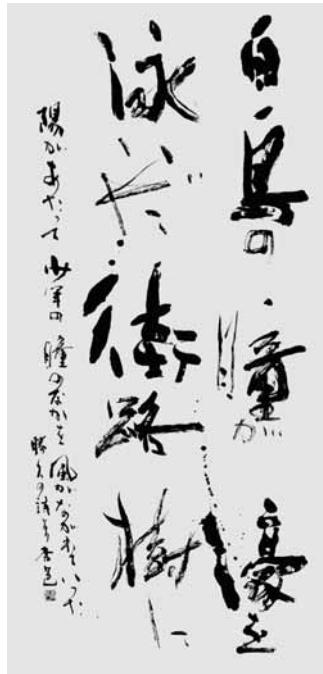
富澤
白雲



「詠懷古跡五首」

伊藤 碧水

「旅」



斎藤
杏風



「開」

上岡まゆみ

惜者猶如未是年華薄
往後悔何人。此可憐也。但中
秋月色無寒意。在在細妙。

一憶昔

自雪紅梅賞

情勢は無
な爲やう
興味で贈ら
れた世界書
見物の餘地
来る事無
少する事
明日入遲と
おどり

「谷川俊太郎の詩」

安藤 美悠

「東山魁夷 京洛四季より」

遠藤 光華

和波の昔空鳴く歌。魚船。紅葉
篠。近江船底の年老い娘。而も漁船の
漁舟の物語。一叶の秋の夜の風。紅葉の
舟。波の聲。漁舟の歌。四時草。

「海の捨児」

長南 一恵

春在湖南。秋中生柳葉。餘念先
蘇。每季飼點燈。和烏鵲。不滿。國是河共
一。長安初。日暮。溫原席前。其

栗原
華泉

白雪紅梅賞



「種竹亭題畫」

戸部 藤風

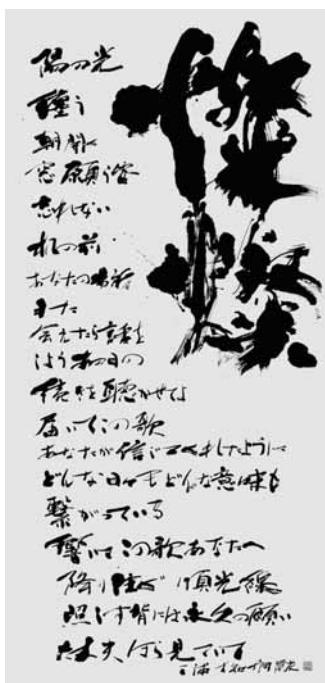


「心」

藤田 香園

「獨上江樓思渺然月光如」

本田 賀艸



「三浦大知の詞」

吉田 溪花



「題松汀汀舞」

三浦 小樹

〈第75回記念展で選抜（春華賞・春華賞候補）された大作コーナー〉

大作
太田
蓮紅



「時を翔る」

180×360cm

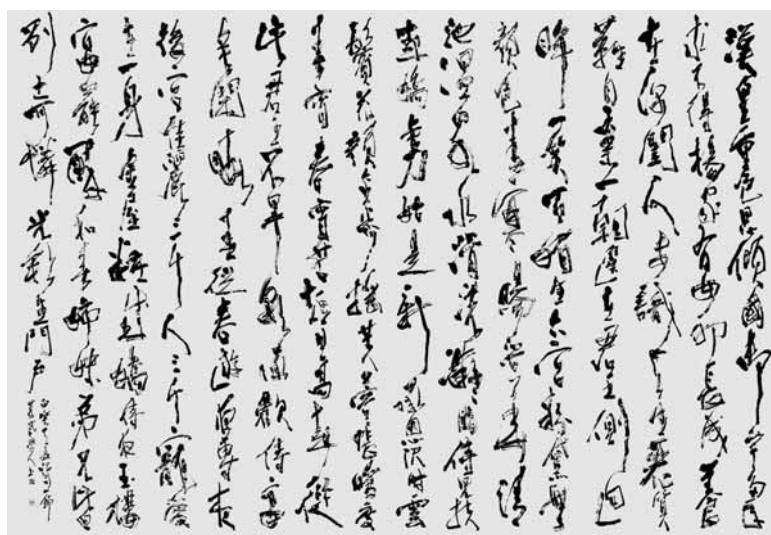
大作
武山
櫻子



「鮎貝文子の歌」

180×360cm

大作
西川
翠嵐



「白楽天長恨歌一節」

240×360cm

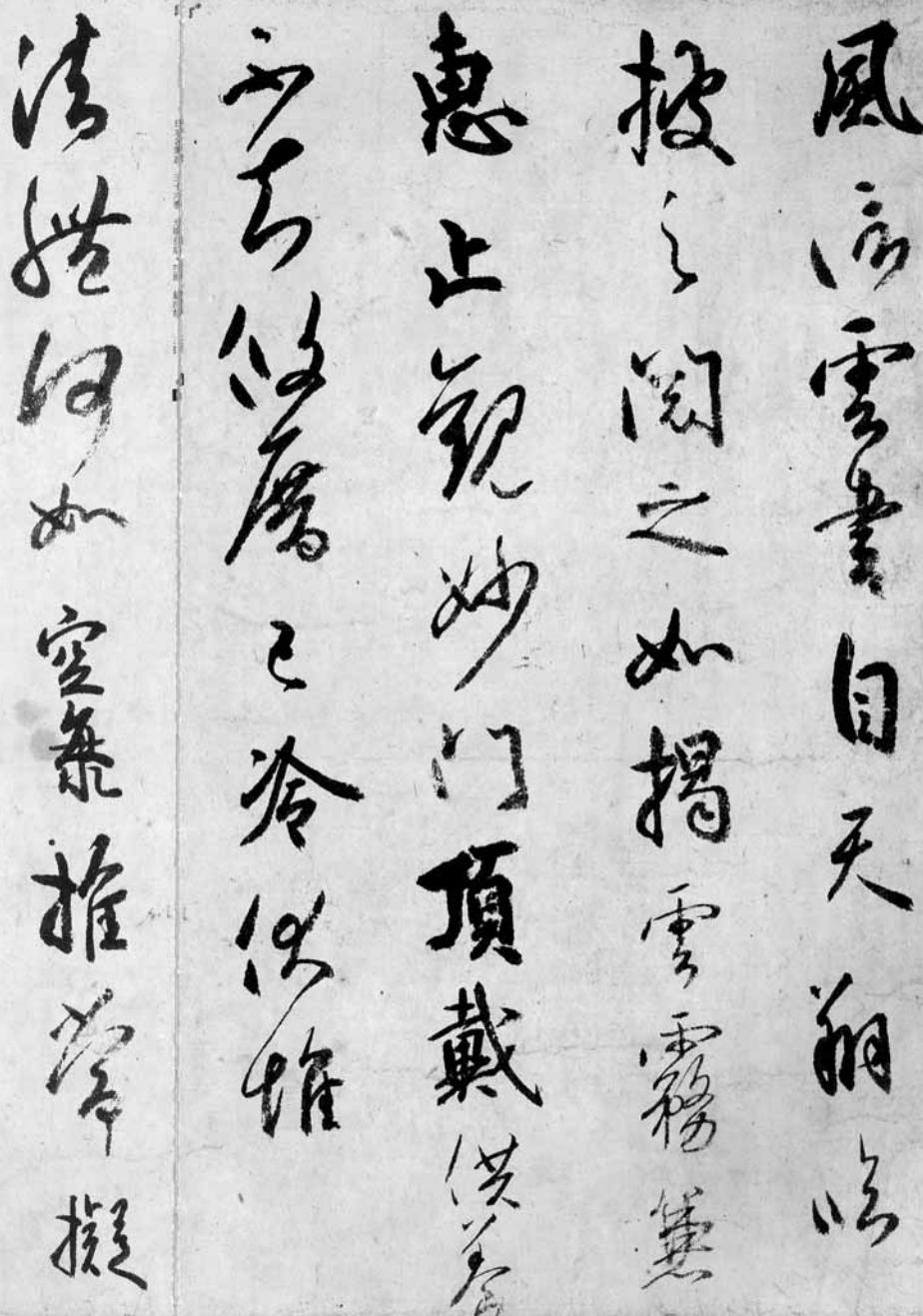
空海 風信帖

①

漢字研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

II (A・大作の部 每日晨晝貰・貰サイズ以内 2×6尺・金額も可) 当該古典の左記掲載
(B・小品の部 当切以上半切以内 金額以内も可) (A・B 縦横混用) 部分以外も可。

(東寺藏)

(掲載図版・60%に縮小)

<解説>

風信帖は空海(弘法大師)に宛てた書状三通を一巻に仕立てたもので、冒頭に「風信書」とあることからこの名がある。「通目」を忽波帖、三通目を忽惠帖と呼び、区別することもある。

一通目は最澄への返信で仏法の教義について討議するため來訪を促した内容である。空海の四十歳前後の書と推定されている。

王羲之の書法を根底にした風格のある書風で、特にたっぷりとした太い線と引き締まった細い線の対照が印象的である。

(編集部)

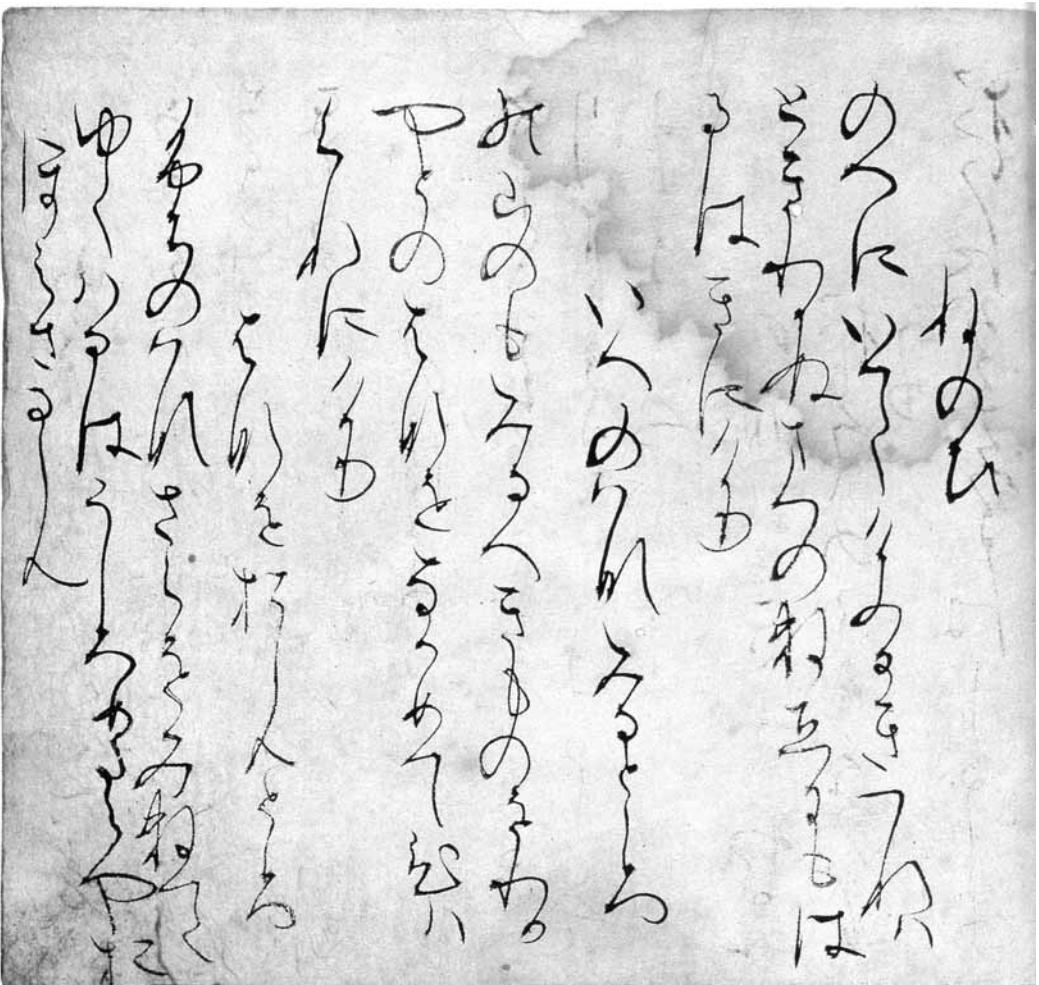
*落款を必ず入れる。署名、もしも印は〇〇臨(押印のみ可)

風信書、自天翔臨。/披之闕之、如揭雲霧。兼、惠止觀妙門、頂戴供養。/不知攸唐。已冷。伏惟、法体何如。空海推常、擬。

かな研究部臨書課題
特別研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
B.A. 大作の部||毎日展葉芸芸員・会員サイズ以内、 2×6 尺・全紙也可
B.B. 小品の部||半切以上、半切以内(縦横自由)
△いずれも左記の掲載以外も可。△

※掲載図版は原寸



(出光美術館蔵)

〈よみ〉

ねのひ
のべにいでけふひきつれば
ときわかぬまつすゑにもは
るはきにけり

能
の山のもみるべきものをわが可
者那
おしむところ

布
ふぢのはなさくをみすてゝ
者那
奈可
数

久
くれにけり

ゆくはるはうしろめたくやお
多
お

ばえざるらむ
元

〈解説〉

三十六歌仙の一人、中務（宇多天皇の第四皇子敦慶親王の娘）の歌集である。筆者は西行と伝えられているが、西行自筆の「一品経和歌懐紙」等と比較すると自筆と断定することは困難とされる。しかし、他の伝西行の古筆「一条撰政集」や「山家心中集」と類似する書風であることは確かである。

「高野切」等の優麗典雅なかな書風とは一線を画し、力強くシンプルな書きぶりが特徴である。

(編集部)

※落款を必ず入れる。署名、も
しくは〇〇臨(押印のみも可)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょ。

習い方解説 (一)

坂本素雪

鳥啼樹裏 (「新註墨場必携」)
(鳥樹の裏に啼く)

姿は見えなくても鳥の声でいる
のがわかる有象無象のなかで姿
が隠れていてもその一声で存在
がわかる

これから6回担当する事になる

が不慣れ故、解説にご理解戴けな
い時はご容赦願いたい。どちらか

と言えば現代詩文書を得意とする
ので、文や言葉を書く以上はその
意味を思い浮かべてしまう。作風

は、どうしても抒情的な感じになっ
たかもしだれない。樹の裏に隠れて
いても声でわかる。ですから字を

少し小振りにし、余白を大きく樹
の生い茂った森に想定して創作し

てみた。「鳥」あっさりとしてい
るが字形バランスに注意する。

「啼」口は上部に持ってきて左下
を大きく空ける。「樹」小鳥がス
イシイと小枝を飛び交う様な筆致
で。集字聖教序の臨書をしてから
書くとリズムがよい。

鳥啼樹裏 よみ (鳥樹の裏に啼く)

書体=自由



習い方解説 (一)

大平邑峰

守命共時
(左伝)
(命を守るに時と共にす)

天命を守り保つには時勢と共に
しなければならない。

今月より、半年間担当となりま
す。よろしくお願いします。

秀級以下は楷書でということです
が、一口に楷書といつても書道
史上には多くの古典があり、特徴
も様々です。このシリーズでは整
正というより、温雅な雰囲気の古
典をピックアップして書道史を踏
まえながら楷書を楽しんでいきた
いと思います。

第1回目は、楷書の古典として
は古い時代の魏の鐘繇の書に注
目してみました。漢代の隸書が楷・
行・草に変遷していく過程を見る
上でも重要な古典と思われます。
扁平な字形と素朴で温かみのある
書を目指して、スタートを切り
たいと思います。

紙は中国画仙、筆は唐筆羊毫中
鋒、墨は濃墨で書いてみました。

守命共時 よみ(命を守るに時と共にす)

書体=楷書



習い方解説 ↗

下谷洋子

月のひかりはへだてざりけり

(待賢門院堀河「千載集」)

白雲とみねのさくらは見ゆれども
峰のさくらは白雲のように見え
るが、月の光をさえぎらない」の
意

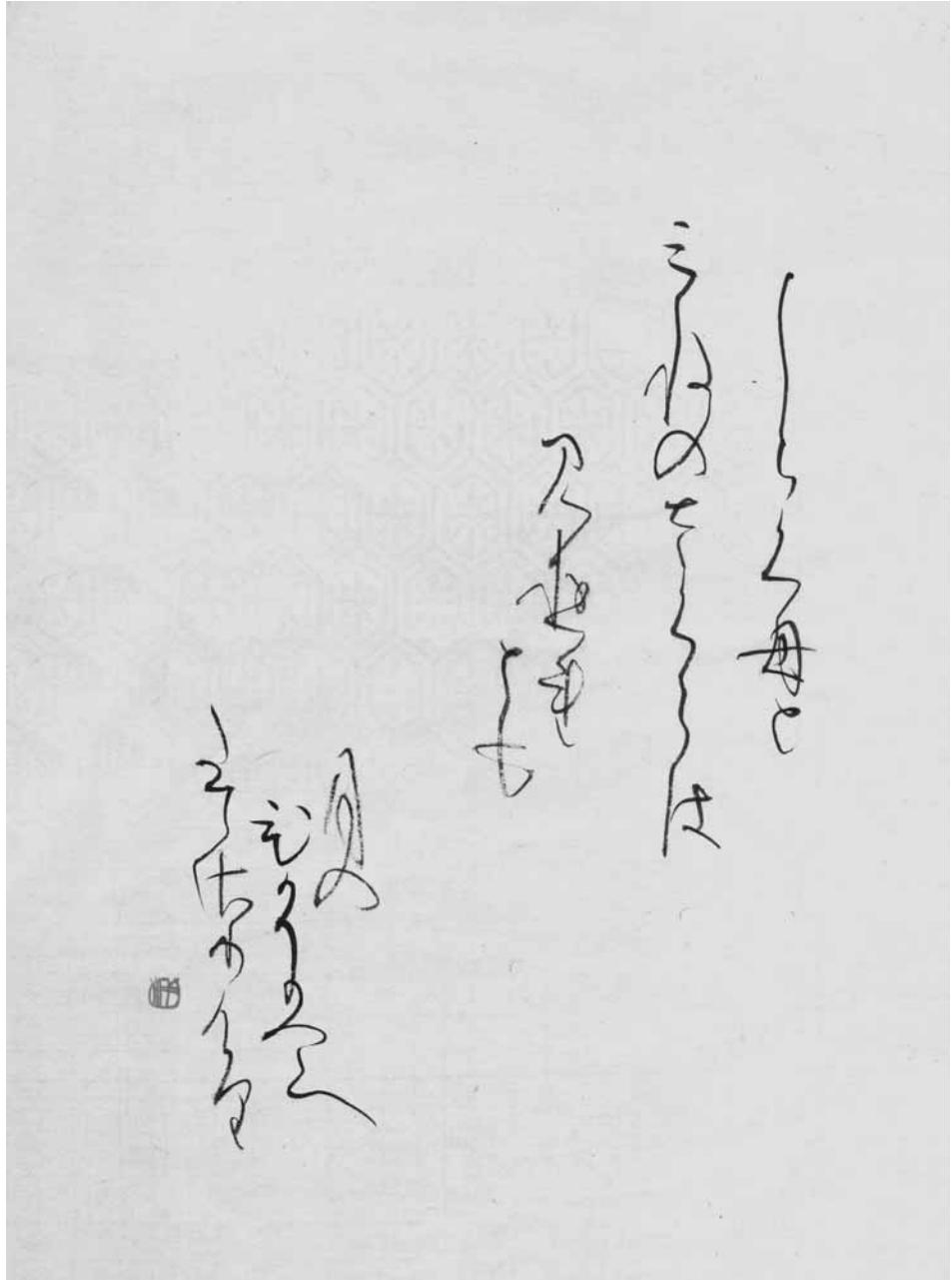
かな表現は実に多彩です。ただ、
そこ至るまでにはかなり高いハードルを越えなければなりません。筆の持
ち方においても間違えると肩が凝つたり指が痛くなったりするようです。
幸い今は動画もあるので活用して下さい。

もちろん変体がなや連綿、散らし書きなどの基礎的な知識も知らない
ればなりません。その上で素材をどう書くか、どこに思いをおくか、難
しい問題が出てきます。かなとして成り立つ作品というだけでなく、今
生きている感覚で、自分のリズムを持ったままを感じるかなであります。

創作

* 料紙は半紙版(33.0×24.0cm)を使
用しましょう。

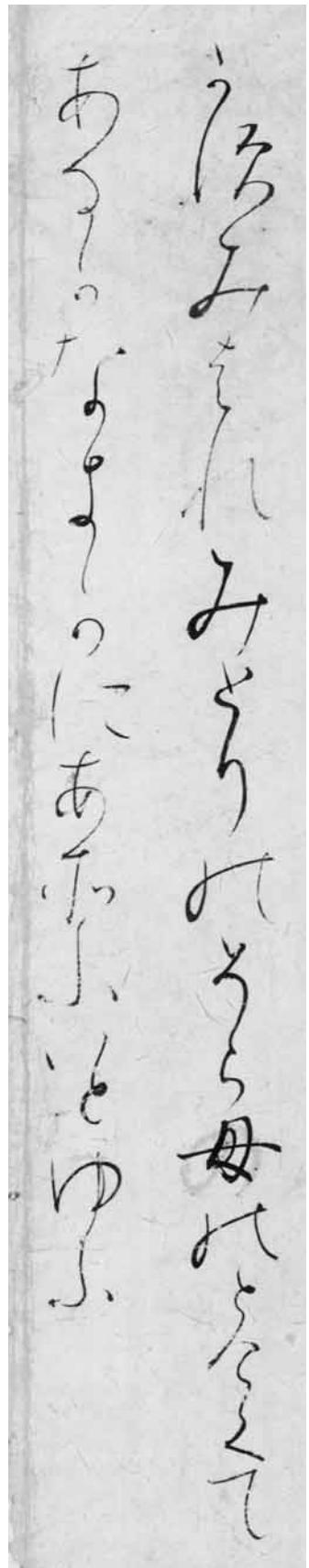
よみ方 白雲(しらくも)とみ(三)ねのさく(久)らは見ゆ(遊)れ(連)ども
月のひ(飛)か(可)りは(盤)へだ(多)てざ(佐)り(利)け(介)り(里)



かな規定 秀級以下【五月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真拡大120%)
掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集



よみ方 か(可)す(須)みは(者)れみどりの(能)そ(曾)らも(母)の(能)どけ(介)く(久)て

あるか(可)なき(支)か(可)にあそ(所)ぶいとゆふ

かな条幅規定【五月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

須田清子選書

習い方解説 (一)

須田清子

花さそふなごりを雲に吹きとめて
しばしひにほへ春の山風

(藤原雅経「新古今和歌集」)



最初はあまり墨を含まず、2行
目との潤滑を考えて書き始めます。
二行書きの作品を仕上げる場合は、
隣との文字の呼応を考え、文字
の大きさ、字幅の工夫が大切です。

よみ方 花(者那)さそふなごり(利)を(越)雲に(一)吹き(支)とめ(免)て(亭)

しば盤(し)志(は)(八)にほ(本)へ春の山風(可世)

*タテ形式に限る

創作

後 藤 大 峰



漢字条幅規定 秀級以下 [五月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

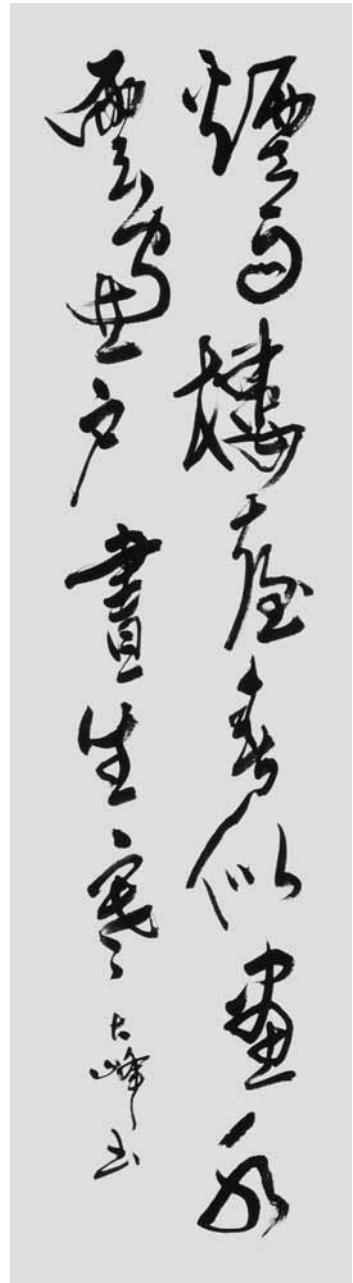
高田幽玄選書

習い方解説 (一)

高田幽玄

今月から担当いたします。

厳しい寒さに耐えて人々は春咲き出す花を心待ちにします。しかし花はそうした人の思いとは関係なくただ咲かずにはいられなくて咲いているだけです。花は結果を求めたり、誇ったりはしません。書に対しても無心に取り組みたいと思います。楷書はごまかしのきかない書体です。字形を正確につかみ、1行貫通したものを追求しましょう。



煙雨樓臺春似畫 水雲窗戶畫生寒
(煙雨の樓台春画に似たり、水雲窓戸昼寒を生す)
(錢惟善)

書体=自由

今回より6回、担当させて頂きます。条幅の創作は、作品創作の第一歩として有効な方法です。会員各位の習得の一手段として利用下さい。今回の作品は、明代の作家、王鐸の作風を基調に文字の大小、行の流れを表出して紙面のスペースを埋めてみました。全体の動きを大切に、一文字、一文字、確実に表現してみましょう。

*タテ形式に限る

東福青篁

菜の花畠に入日薄れ
見わたす山の端 霞ふかし
春風そよふく 空を見れば
夕月かかりて にほひ淡し

「臘月夜より 青篁書

今月から6ヶ月ペン字を担当させていただきます。新たに始められる方もおられます。ペン軸は指先に余り力を入れ過ぎない様に、かなは漢字より小さめに書く様に心がけましょう。

今回、芳賀徹著『詩歌の森へ』から「臘月夜」を選びました。高野辰之作詞によるもので、故郷信州への思いが込められています。八・六の韻律と「にほひ」の視覚的な色あいにより、菜の花畠の暮景が美しく感じられます。

菜の花畠に 入日薄れ
見わたす山の端 霞ふかし
春風そよふく 空を見れば
夕月かかりて にほひ淡し
臘月夜より

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!! 用紙の大きさにばらつきが見られます。
用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

温暖 穀雨 徳島県 香川県

温暖 穀雨 徳島県 香川県

三浦 鄭街

咲き満つる桜も、冷たい春雨に震えています
咲き満つる桜も、冷たい春雨に震えています

(楷書) 温暖 穀雨 徳島県 香川県
(楷書) 咲き満つる桜も、冷たい春雨に震えています

(行書) 温暖 穀雨 徳島県 香川県
(行書) 咲き満つる桜も、冷たい春雨に震えています

基本用語 「穀雨」二十四節気の一つ。穀物を成長させる雨が降る4月中旬頃。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る 〈審査会員を含む誰でも出品可〉

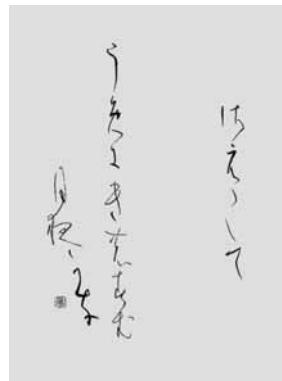
今
月
の

ホープ作品
各部総評 NO.742

かな部 師範 篠田恵美子

後半の収め方でこの作品のモダンな響きが決まりましたね。字の大小に墨量・墨色全てが冴える。

◎かな部総評 概ね整った作品が多くた。俳句はやや大きめ方が映るが、大きさだけでなく線の太さにも注目したい。（洋子評）



かな条幅部 師範 真下美佐代

一糸乱れぬ流れに文字の大小・線の太細・緩急の変化を駆使し変化と統一美はさすが師範の手腕。

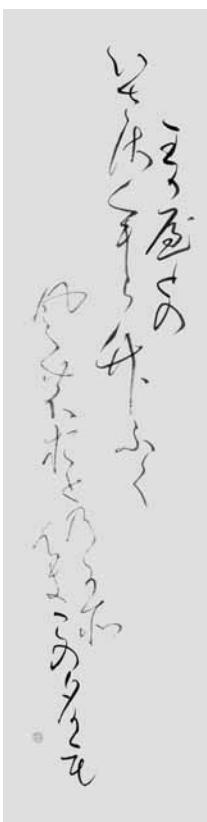
◎漢字条幅部総評 行草作品の流動美の表現では、全体を見通しての行の呼応による余白の生かし方の研究が大切です。（石雪評）

漢字条幅部 師範 田中 一葉

一糸乱れぬ流れに文字の大小・線の太細・緩急の変化を駆使し変化と統一美はさすが師範の手腕。

◎漢字条幅部総評 行草作品の流

動美の表現では、全体を見通しての行の呼応による余白の生かし方の研究が大切です。（石雪評）



前衛書部 特選 田村 恵石

大胆かつストレートな造形。下部の柔らかく回転する渴筆線で作品を締め、初志貫徹の快作。

◎前衛書部総評 多様な淡墨、異次元的な構成作品が多くグレードアップを感じました。（慧香評）



現代詩文書部 特選 板橋 恵泉

太細の変化と絶妙の文字配置が冴えて空間が美しい。新鮮な感動を受ける作品となった。

◎現代詩文書部総評 淡墨・濃墨ともに、特性を活かした表現の作品作りが望まれる。（掃雪評）

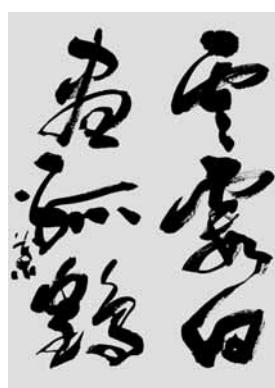


漢字部 師範 田中 一葉

太細、曲直、潤渴、軽量、遲速の変化が絶妙。余白の意識を持ちられた。一方、隸法に未熟な作もあり、大差を感じた。（萬城評）

◎漢字部総評 上級は巧妙な書法で魅力に富んだ隸書作品が多く見られた。

統一感があり、創意溢れる作品であり、大差を感じた。（萬城評）



ペン字部 師範 渡辺 薩月

ペン先を活かした緩急自在の線が、字形の美しさを際立てています。丁寧で品格溢れる作品です。

◎ペン字部総評 行書作品は字が大きくなりやすいので、漢字かな

の調和と行間に留意してメリハリを作ることが大切。（孝予評）

いっぱいあらわれた時は、味方がいっぱいいるものだ。

自分の前に敵がある
振り返って見よ。
生田長江のことば 萬月園

実用書優秀作品

選評 岩垣若翠

◎実用書部総評

真剣に取り組み仕上げた作品が多く見られ感銘を受けた。文字は優れていたが、単体の行が整っていない作品があり残念である。

特選 鈴木英晴
穏やかな運筆の中にも抑揚がある。
仮名の連綿が自然で美しい。

余寒 鶯梅 岡山県鳥取県
余寒 鶯梅 岡山県鳥取県
日脚も延び、少す春めのソラモリた
日脚も延び、少す春めのソラモリた

特選 久保天鈴
丁寧で終始一貫した筆致が見事。
大小の文字が調和して心地よい。

余寒
鶯梅岡山県鳥取県
日脚も延び少しずつ春めいてきました
日脚も延び少しずつ春めいてきました
久保天鈴

前衛書部（特選）

現 代 詩 文 書 部 (特選)



文沙虫錄

廢菴江子子

细雨湿流苏

詩奧

淡汎に漂に繋

壁美
わす
んで
白を
お

に氣

成唯咏浩當

江美仙一美

横名潤次郎

快刀亂
墨渴

麻の重操作曲は技巧

を思ひ
なり

立ム力ニガムサ

選評三森蕙香

詩の表現と構成心地良い
独特的の運筆、表情豊か
大胆な構成が余白に響く
文字造形の妙、安定作
造形に配慮し爽やかな作

京小樹
仙眞ん中の構成が印象的
衣子線のしなやかさ素晴らしい
子耀「し」がインパクトあり
沙莉余白が効いた巧みな構成

溪 翠 感性ある運筆構成が良い
真由美 大小の構成と淡墨魅力的
紀子 文字の表情が豊かで見事
喜代美 淡墨の魅力遺憾なく発揮
眞華 安定した運筆、リズムあり

躍動する筆、空間を切る
邑芳聰奎博春山濃墨の潤渴が味わい深い
躍動する筆、空間を切る
邑芳聰奎博春山濃墨の潤渴が味わい深い
躍動する筆、空間を切る
邑芳聰奎博春山濃墨の潤渴が味わい深い

選評山崎掃雪

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 小竹石雲 石井明子 半田藤扇 山口仙草

臨書 (華祥社)
小泉潤
「居延漢簡」



小泉潤臨

136×35cm

◆木簡の表情を豊かに捉え、安定した筆法は快作となつた。爽快で着実な作にエールを送ります。

(藤扇評)

高橋蒼香書



68×35cm

石雲記

◆ボリュームある筆魂が
紙面を圧する。力強く逞
しい大字と小書きの纖細
さが調和して光彩を放つ。

前衛書 (大拙社)
佐藤陽子
「旅立ち」



136×35cm

◆流動的なリズムが新鮮で潤滑の変化も見事。線に響きがあり余白も美しい。
（仙草評）

「漢字」
(創作の部)
△特選候補者

總
出
品
點
89

閉が心温ま
り、心に
女堵感を覚
いのない自
的である。

◆筆の開閉が心温まる筆致となり、心に安らぎと安堵感を覚える。街のない自然さが魅力的である。

か	な	—	2
漢字	の部	(44)	占
か	な	—	2
な	—	—	占
1	43	占	占

〈小品の部〉

28

漢字研究部
(居辰漢簡)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



相澤敦子



聖小遊美雄蒼
佐泉簞山子一香

清惠千洋陽
進香芳秋子峰

祥桜光白華
朗扇華葉珠洋

藍一萩淳紅美
水葉雨子霞梢

漢字研究部 特選 相澤敦子

おおらかでかつ細部にまで神経が行きとどき筆の開閉見事です。重厚な線質で安定感抜群の作です。古典の学びをしっかりとふまえて書作している姿勢が窺えます。更なる探求を期待しています。

◎漢字研究部総評

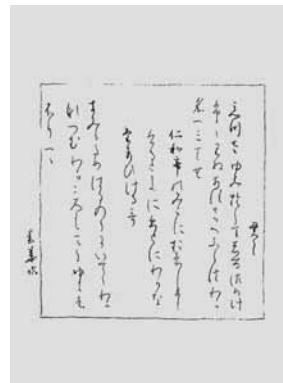
臨書の基本の第一は、原本の字形をよく観察して忠実に書くことから始まります。出品

作にはあまりにも無頓着な作品が多く誠に残念です。学書する際には手元に辞書、参考書を用意して丁寧な学書を心がけてください。木簡は特徴が捉えやすいです。突く線、引く線、太い線、細い線で、強弱、抑揚などリズムをつかんで書くことが大切です。古典と真摯に向かいあい深く捉えて学書することを身につけてください。

か な 研 究 部
(元永本古今集)

選評 奥田瑞舟

今月のホープ作品



宇田川 春 華

かな研究部 特選 宇田川 春華
巧みな筆毛の上下動による細太が生きた。難しい非連続の気脈も見事に貫通している。造形の確かさにも注目した。墨色も料紙に映えて美しい。

◎かな研究部総評

元永本古今集の魅力は「かな」と「漢字」の融合だと学びます。筆鋒が鋭くて繊細な線の動き、品格があります。続けて勉強したい古典ですね。研究された優秀作品を拝見しての感想です。

かな研究部成績表

根据规定，对于涉及国家安全、社会稳定的重大事项，决策前应当进行社会稳定风险评估。

第76回書道芸術院展

〈併催 = 第74回全国学生書道展〉
〈半紙の部 大賞作品〉



(中) 楠瀬心実



(小) 松浦優來



(小) 深田紗世



(高) 佐藤菜那



(高) 澤村千咲



(中) 戸田かれん



(中) 有光由藍

ごあいさつ

公益財団法人書道芸術院 理事長 下谷洋子

令和五年卯の年となりました。コロナウイルスに振り回され続けて4年目になります。

全国学生書道展は74回目を開催できました。コロナウイルスは次々に変異株が現れ、加えて昨年は、ロシアによるウクライナ侵攻という、戦争体験のない私たちにとっては想像を絶する光景を連日突きつけられたりもしました。他にも世界ではさまざまな不穏な状況に、どこかギスギスした特別な時代を感じたりもしています。コロナによる厳しい制約や緩和されたとは言え、以前のようなあたり前の日常は戻っていません。そんな日々の変化の中で、全国の小学生から大学生まで広く、また多数の方々からご応募をいたさ、深く感謝申し上げます。

お寄せいただいた作品は、半紙・半切½サイズそれぞれに気迫の漲った、時間をかけて丁寧に書かれた力作ばかりでした。学習指導要領に基づく書写・書道からさらに広がりのある楽しく、また堂々と力溢れる表現や繊細な表現など、高校生以上では古典臨書から創作まで、多彩な作品で充実していました。

審査は、当番にあたった先生方で、公平に厳正、さらに今後への奨励という温かな配慮もしつつ、時間をかけて行いました。応募された児童・生徒の皆さん、ご指導された先生方、また親身になってお子さん達を支えて下さったご家族、ご友人など、全ての皆さんにも深く感謝申し上げます。

今回は、帝国ホテルでの表彰式（上位賞のみ）、展示会場での席上揮毫会、ワークショップは復活し開催致しました。少しずつ、日常が戻ってくるのを実感しています。今後もご指導ご協力をお願い申し上げます。

△ 半紙の部 準大賞作品

(高) 石川結理
秋理

蘭
脩
禊
亭



(中) 今橋美紅
伊野中一年
今橋美紅

青物
市場

(中) 中岡桃子
土佐一年
中岡桃子

身心
健全

(中) 権田日向子
二年
権田日向子

決意を
固める

(中) 成塚萌果
中二
成塚萌果

清新
の気

(高) 石澤音羽
音羽臨

國造

(小) 兜坂蓮
成徳四年
兜坂蓮

星光
るが

(小) 尾坂朋華
山尾坂朋華

光るけ

(小) 滝口日菜
小滝口日菜

流れの
雲

(小) 今井莉緒
小六
今井莉緒

活気

(中) 高橋あおい
中高橋あおい

青い
地球

〈半切½の部 大賞作品〉



(高) 伊 藤 結 香



(中) 掛 布 花 音



(中) 長 尾 侑 哉



(小) 星 紀 怜

〈半切½の部 準大賞作品〉



(中) 山 本 陽 天



(小) 高 嶋 つ む ぎ



(高) 越 川 李 美



(中) 實 形 咲 恵



(中) 森 田 有 紀

第74回 全国学生書道展
「指導者作品展」役員作品

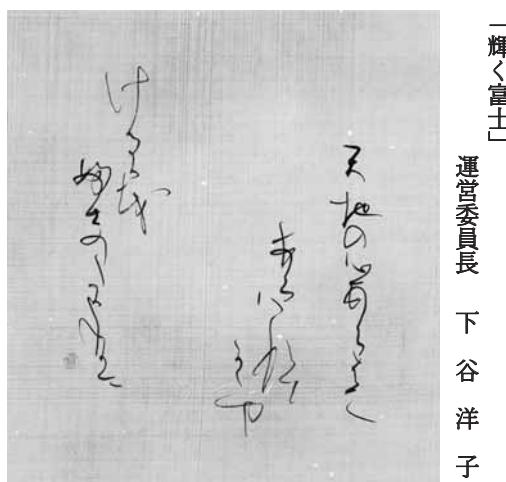


「立徳」

顧問・名誉会員 辻 元 大 雲



「惠風」顧問・名誉会員 大 野 祥 雲



「輝く富士」

運営委員長 下 谷 洋 子

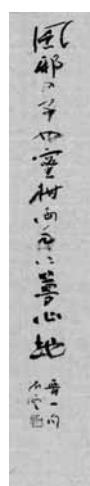


「生」顧問・名誉会員 香 川 倫 子



「不變 (変)」

実行副委員長 後 藤 大 峰



「風邪の子」

実行委員長 小 竹 石 雲



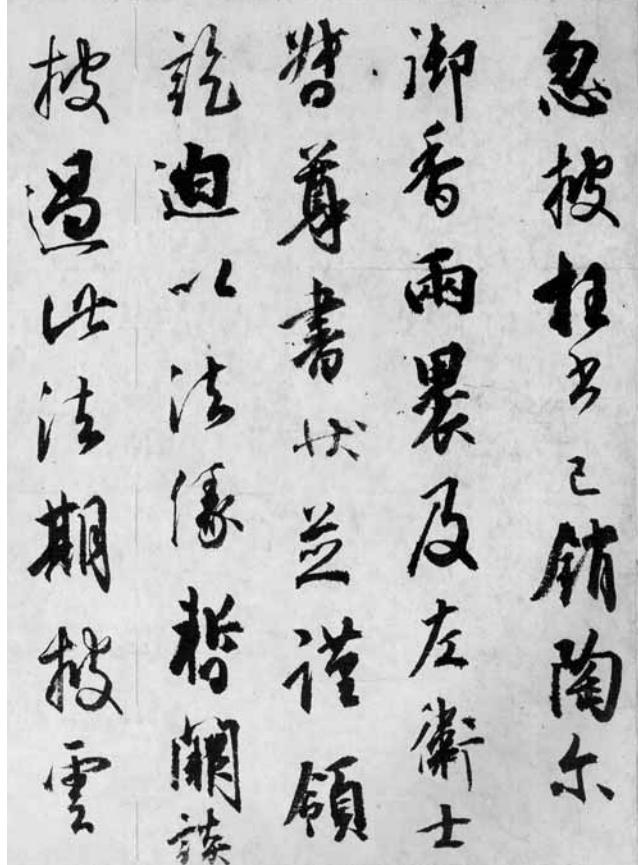
予告

2023・5月号(745)の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

(6月15日締切)

古典鑑賞

④50 空海 風信帖 ②

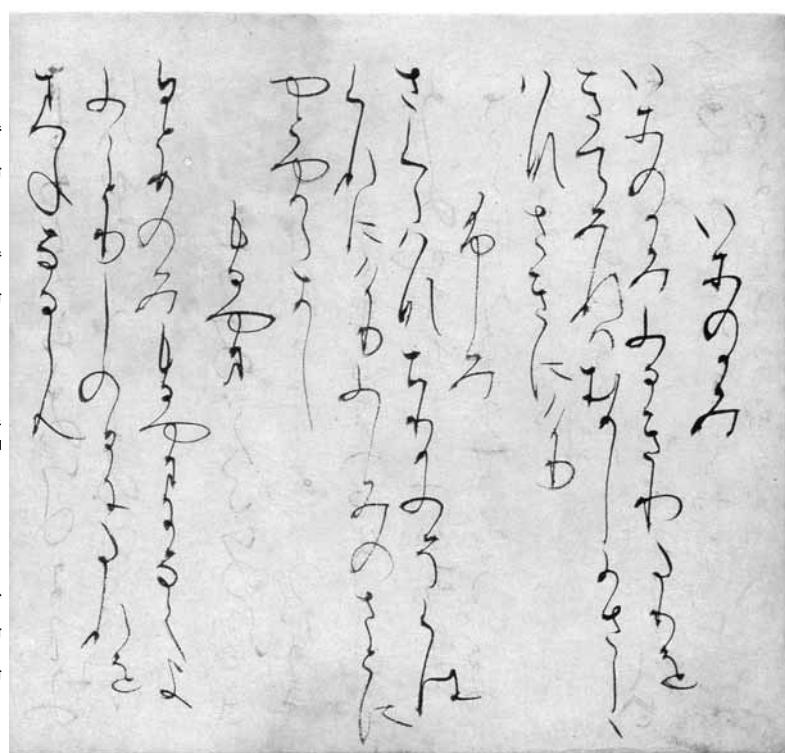


(東寺蔵)

(掲載図版・40%に縮小)

古筆鑑賞

④30 中務集(伝西行)②



(出光美術館蔵)

(掲載図版・75%に縮小)

忽披枉書、已銷陶爾。御香面墨、及左衛士督尊書狀、並譲領訖。迫以法儀、
暫闕談披、過此法期、披雲。

（出典）忽披枉書、已銷陶爾。御香面墨、及左衛士督尊書狀、並譲領訖。迫以法儀、
暫闕談披、過此法期、披雲。
（出典）忽披枉書、已銷陶爾。御香面墨、及左衛士督尊書狀、並譲領訖。迫以法儀、
暫闕談披、過此法期、披雲。

特別昇段級試験

第二種（計2枚）

楷臨書 蘇慈墓誌銘（蘇慈墓誌銘より
より4文字を臨書）

行創作 和神養素（神を和げ、素を養う）
(王右軍)

行創作 玉堵一（玉堵三春落花満月を留め
金殿三春落花満月を留め）

行創作 金殿三春落花満月（玉堵一、夜留明月を
金殿三春落花満月を留め）

一、しめきり日 4月15日㈯

春季作品募集は、左記の通りです。

漢字 一種、二種

かな条幅 一種、二種、三種

かな条幅 一種、二種、三種

ペン字 一種、二種

漢字、かな条幅、ペン字の三種は、

秋季募集となります。

漢字部 半紙=たて長に使用

第一種（1枚）

楷臨書 孔子廟堂碑（孔子廟堂碑より
より4文字を臨書）

第一種（1枚）

楷臨書 孔子廟堂碑（孔子廟堂碑より
より4文字を臨書）

第一種（1枚）

楷臨書 孔子廟堂碑（孔子廟堂碑より
より4文字を臨書）

第二種（楷・行 計2枚）

楷臨書 皇帝誕碑（皇帝誕碑より
14文字を臨書）

行創作 争座位文稿（争座位文稿より20文字を臨書）

行創作 野草無名都（野草無名都より20文字を臨書）

行創作 金殿三春落花（金殿三春落花より20文字を臨書）

四、名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。
○創作は〇〇書と書く。（かな部・か

な部の落款は印のみ可）

○创作は〇〇書と書く。（かな部・か

な部の落款は印のみ可）

五、受験料

第一種 一、五〇〇円

第二種 三、〇〇〇円

第三種 四、五〇〇円

△昇段級試験用振替口座で納入。

成績に応じて、次の通り昇段級させる。

第一種は、最高秀級まで

第二種は、最高二段まで

第三種は、最高師範まで

△昇試出品券を貼付欄に貼る。

一種は作品の右下に貼る。二種・

三種は一番上のみ、作品の右下

に貼る。

作品2枚以上ある時は、右上を

ホチキスまたはのりでとめる。

団体支部の方へは事務所から応

募書類一式を送付する。

個人で受験希望の方は、はがき

で申し込み。

受験申込み締切は3月20日㈪

（申込期限を過ぎましたが、希

望者は大至急申込を）

申し込み先

〒101-0031 千代田区東神田1-16-7

東神田プラザビル三階

公益財團法人

書道芸術編集部特別昇段級試験係

（受験番号を記入した個人専用

の応募書類を送付します。）

応募書類は4月1日以後に整理

発送。送付された応募書類に必

要事項記入の上、作品に添え応

募する。

●篆刻

【五月十五日締めきり】

〈出品規定〉

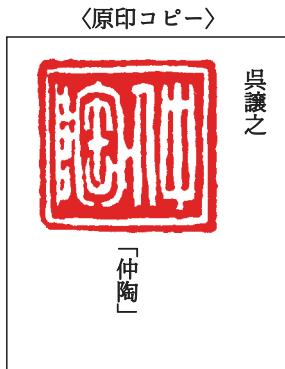
① 墓刻

(ア)課題による語句

(イ)原印自由

(出典の際、原印のコピー添付)

② 創作 語句自由



4月号 墓刻課題

- 印面の大きさは3.4cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、墓刻とも応募は一人一点。

◎出品方法
用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

(墓刻)	
新栄	特選 加藤 万丈
加藤	佳作 (50音)
萬丈	

(墓刻)	
林中	大雲 網秀
川鷺山	小沢 作 (50音)
淳研	華仙
美梢	一治
一	華仙
生	北日 芳琴
天	丸山 小映
(選外なし)	北日 蒼原
水	金谷 幸喜
やま	成田 皓洋
高岡	能喜
吉原	橋本 晴麗
（選外なし）	庄司 一起子

(創作)	
粹石	秀
仙心堅	作 (50音)
藤井	特選 坂本 覚山
大沼	佳作 (50音)
龍仙	
（選外なし）	

(創作)	
游雲	唯一
荒星	逢沢
空華	文庵
(選外なし)	唯一大

74号篆刻優秀作品

選評 後藤 大峰

墓刻

<特選>



「長宜子孫」



「率賓歸王」

創作

1部～9部までの1回の郵送料
1か月の購読部数が

送 料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は
送料免除

コロナ禍の中、当分の間十六時まで時間の変更しております。
十六時に時間の変更しております。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
東京都千代田区
東神田一一一六一七
東神田プラザビル三階
101-0031
電話(03)3861-1954
FAX(03)3862-1150五八
振替 00150-0411150五八
ホームページ http://www.lmco.jp/shogei/

定価 一部 七五〇円
発行人 下 谷 洋 子
印 刷 株式会社 リンクス
印 刷 小沢写真印刷株式会社
發行所 公益財團法人 書道芸術院
東京都千代田区東神田一一一六一七
東神田プラザビル三階
電話(03)3861-1954
FAX(03)3862-1150五八
振替 00150-0411150五八
ホームページ http://www.lmco.jp/shogei/